

京都洛東・哲学の道 (第77回くらわん会 2002/11/05)

立冬を待たずに初雪の便りが聞こえ始めた晩秋、洛東の地は太陽が時折顔を見せる肌寒い一日となった。残暑が厳しかった短い秋から一気に冷え込んだ今年は、紅葉が一段と進み、あちこちの木々が鮮やかな彩りを添えてくれた。くらわん会では、お馴染みのコースになった「哲学の道」周辺の洛東の秋をたっぷりと散策した。

三条駅から丸太町寄りの鴨川河原が今日の集合場所で、145名の会員が参加された。時折差し込む陽光にススキの穂が輝き、ひっそりと静かな鴨川の床が淋しげに見える。来春から顧問に就任される新谷世話人から、最後の担当としてコースの説明をしていただいた。

鴨東運河を冷泉通り沿いに岡崎方面に向かうと、疎水の深い緑の水面に紅葉を始めた木々が映り、遊歩道にかかる木の葉が光に透けて美しく、つい見とれてしまう。この運河は蹴上のインクラインから鴨川への物流の為にも役立ったが、途中には大正3年(1914)に建設され今も現役で活躍する関西電力夷川発電所の赤煉瓦が疎水に映えて美しい。

南に折れて二条通を横切り、桜の紅葉が美しい鴨東運河沿いを勧業館横から国立近代美術館横に向かう。平安神宮の朱塗りの大鳥居を横目に、落ち着いた景観の京都市美術館を過ぎると、岡崎動物園横に船溜まりがあり、噴水の近くにアオサギが休んでいた。ここからは大文字と比叡山がよく見え、空に向かって手を広げる「巨大な輝き」と題した彫刻が出迎えてくれ、対岸には琵琶湖疎水記念館がある。

南禅寺の参道に入ると名物の湯豆腐の看板が並ぶ。正称は臨済宗南禅寺派の大本山で、瑞竜山太平興国南禅禅寺で、正応4年(1291)鎌倉時代に亀山上皇の離宮を大明国師(無関普門)に賜り禅林禅寺としたのに始まる。雄大な三門(1628再興、重要文化財)は五間三戸二階二重門の規模で左右に山廊をもち、歌舞伎の石川五右衛門が「絶景かな」と見得を切る場面で有名である。また桃山期

すすきが晩秋の陽光に白くかがやく鴨川河原を百四十五名で出発



鴨東運河を冷泉通り沿いに進むと、今も現役で活躍する関電夷川発電所の赤煉瓦が疎水に映えて美しい



勧業館横の鴨東運河の桜並木がすっかり紅葉して柳の緑と対称的で見られる



雄大な南禅寺三門は、歌舞伎「楼門五三の桐」で石川五右衛門が「絶景かな」と見得を切った処





紅葉の名所、浄土宗西山禅林寺派の総本山 永観堂は、平安時代の初期、弘法大師の弟子・真紹による創建



哲学の道は若王子橋から銀閣寺橋まで約二キロの疎水分線沿いの小径、春の桜、秋の紅葉が美しい



吉田山歩道階段の途中から京都の町並みと五山の一つ妙法が見える



昭和33年5月旧三高創立90周年を記念して、同窓生が旧三高の寮歌「紅もゆる丘の花」の石碑を建てた

の建築「方丈」(1611江戸時代に清涼殿を移建)は大方丈と小方丈からなる国宝があり、その隣の本坊で小休止をとる。

紅葉で有名な永観堂の前を通り、「日本の道百選」にも選ばれた「哲学の道」を歩く。哲学者の西田幾多郎がこの道を好んで散策したことから、「哲学の道」と呼ばれるようになったらしい。「人は人吾はわれ也 とにかくに吾行く道を吾行くなり」と、道の途中には彼の言葉を刻んだ碑も建っている。ようやく桜の葉が色づき始めたところで、人通りもやや少なくゆったりとした気持ちで散策できた。

銀閣寺道から今出川通りを吉田山に向かい、急な階段を上ると吉田山(121m、三角点は105m)で、この公園でやや遅い昼食を摂る。吉田山は旧三高の寮歌「紅萌ゆる丘の花」で有名だが、西麓には吉田神社があり吉田流神道の総家で元は神楽岡と呼ばれ、山全体が神域であったようだ。また、ここには日本中の神社全てに詣でると同じ効能が有るという、重要文化財建築の大元宮がある。

吉田山を竹中稲荷の朱塗りの鳥居が並ぶ参道に下り、黒住教の教祖、宗忠を祀る宗忠神社の境内を抜け、紅葉で名高い真如堂(真正極楽寺)に入る。楓の紅葉にはもう少しだったが、三重塔の横にある菩提樹は真っ赤に紅葉していた。本堂の横から文殊塔を中心として広がる黒谷墓地を通り、浄土宗鎮西派の黒谷本山金戒光明寺に向かう。

このお寺は、幕末の頃、京の町を守護していた会津藩士の拠点で、頑丈な山門の支柱には、銅板が張られ、火矢や鉄砲の玉があたっても跳ね返すことのできる様になっている。黒谷墓地には会津藩士の墓地があり、この他に竹内栖鳳や熊谷直実、平敦盛、春日の局の墓などがある京の三大墓地の一つだ。

美術館が並ぶ平安神宮参道の大鳥居をくぐり、鴨東運河から分流する白川沿いの風情のある道を通って、三条通を京阪三条までたどり着いた。今日はいつもよりやや長い行程だったが、洛東の晩秋をたっぷり味わうことの出来た一日だった。

富田朝己記



真如堂は、鈴聲山真正極樂寺という天台宗のお寺、ご本尊阿彌陀如来の右手に結ばれた縁の綱を握るとご本尊と縁を結び功德があるという

文久二年(1862) 建立され黒住教の教祖、黒住宗忠を祀る京都にすれば比較的新しい宗忠神社



文殊塔を中心として広がる黒谷墓地からは京都の町の展望が開けている、黒谷墓地には会津藩士の墓があり、他に竹内栖鳳や熊谷直実、平敦盛、春日の局の墓などがある京の三大墓地の一つ



真如堂三重塔の横にある菩提樹は真っ赤に紅葉していた



金戒光明寺は、幕末の京を守護していた会津藩士の拠点、頑丈な山門には、銅板が張られ、火矢や鉄砲の玉を防ぐ

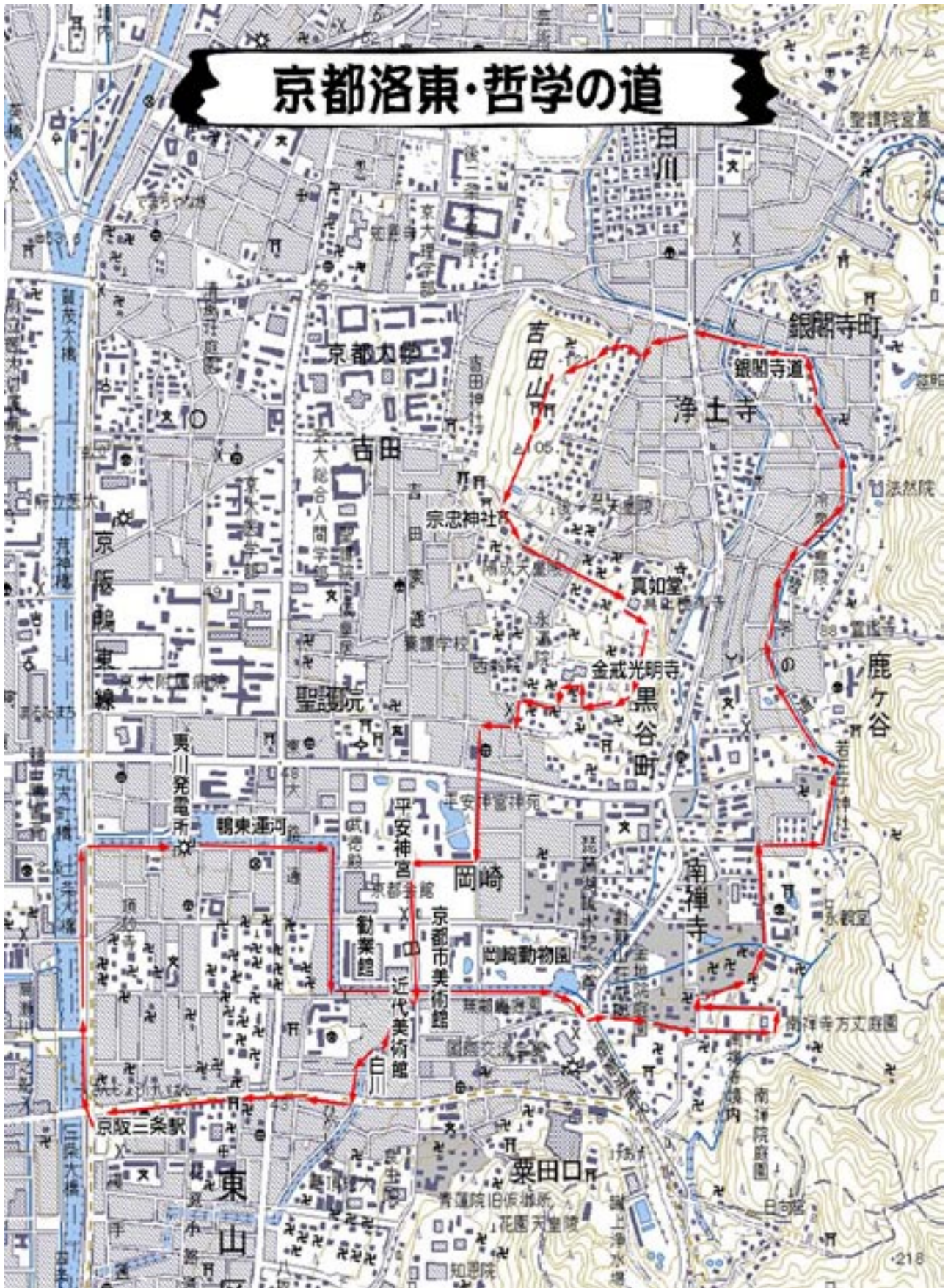
浄土宗鎮西派の黒谷本山金戒光明寺の本堂前には立派な鎧かけの松がある



琵琶湖疏水南禅寺溜りに合流した白川が平安神宮大鳥居付近で再び分流し風情のある川沿いが祇園へと続く

府立図書館、国立近代美術館、京都市美術館が並び平安神宮参道の大鳥居をくぐり鹿流橋を渡る





<行程>

京阪三条駅⇒鴨川左岸⇒鴨東運河⇒南禅寺⇒永観堂⇒哲学の道⇒銀閣寺道⇒吉田山公園
⇒宗忠神社⇒真如堂⇒金戒光明寺⇒平安神宮⇒京阪三条駅 約 10.5 km

2002年11月05日(火) 第77回例会 145名参加